

令和2年度「飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【茨城県】

褒賞名	関東農政局長賞
候補者名	キムラ 孝正 木村 孝正
所在地	茨城県鉾田市
品種名及び作付面積	あきだわら 2.9ha
10a当たり収量	691kg/10a
地域の平均単収からの増収	170.2kg/10a
取組内容	<p>○経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 ・家族経営(本人、妻、期間雇用2名)により、水稻6.7 ha、ホウレンソウ30 aの複合経営 ・地域の担い手として、水田作業の受託を行う等、経営規模の拡大に取り組んでいる。</p> <p>○多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 ・H27年からJAのアドバイスにより、多収で耐倒伏性に優れる知事特認品種「あきだわら」を導入し、経営面積のおよそ4割で飼料用米を生産している。</p> <p>○多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) ・苗質の向上のため165g/箱となるよう播種、太く健康な苗づくりに努め、初期生育の確保につなげている。 ・収量を確保するため、例年7月上旬から約2週間の中干しや間断灌漑を実施し、田面を硬くして稲の倒伏を防ぐとともに、根張りをよくして良好な登熟に努め、未熟粒の発生を抑えている。また、生育に応じて追肥するなど、基本技術を励行している。 ・多肥栽培での紋枯病発病による倒伏を防ぐため、適期に薬剤防除を行うなど、病害虫防除にも取り組んでいる。</p> <p>○その他コスト削減等の取組があれば具体的に記載 ・疎植栽培に取り組み、使用育苗箱は慣行18枚/10aに対し、13枚/10aと約2000円/10a削減するとともに、株間の風通しを良くし、病害リスクを低減させている。</p>

令和2度「飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【栃木県】

褒賞名	関東農政局長賞
候補者名	花塚 歩美
所在地	栃木県大田原市
品種名及び作付面積	北陸193号 約2.4ha
10a当たり収量	722kg/10a
地域の平均単収からの増収	148.3kg/10a
取組内容	<p>○経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 ・家族経営(3名)により、水稲作付7.9haを経営。水稲以外に、にらを70a栽培。</p> <p>○多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 ・作付品種の北陸193号は、倒伏に強く多収穫が見込めるため、平成30年産から、あさひの夢から切り替えて取り組んでいる。交付金を最大限に利用出来、収穫後のわらも活用している。</p> <p>○多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) ・土壌改良として、牛糞を10aあたり2トン投入。施肥は、飼料用米専用のBB211を使用している。</p> <p>○その他コスト削減等の取組があれば具体的に記載 ・田植えは坪あたり50株で行っている。雑草、病害虫の防除対策等として、田植えと同時に除草剤、殺虫剤を散布し作業を省力化している。</p>

令和2度「飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」受賞者の取組概要

【千葉県】

褒賞名	関東農政局長賞
候補者名	株式会社エグチライスファーム 代表取締役 江口 さやか
所在地	千葉県柏市
品種名及び作付面積	夢あおば:約1.9ha
10a当たり収量	689kg/10a
地域の平均単収からの増収	182.9kg/10a
取組内容	<p>○経営形態・経営面積・作付品種及び各面積</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水稲約4.0haと露地野菜約65aの複合経営</li> <li>・主食用米(コシヒカリ):約1.6ha、加工用米(ヒメノモチ):約0.5ha、飼料用米(夢あおば):約1.9ha</li> </ul> <p>○多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年からアキヒカリの栽培を開始したが、早稲のためスズメ等の鳥害に多く遭い収量が上がらなかったため、平成28年からは夢あおばに品種を変え栽培中</li> <li>・夢あおばは、主食用米の後に収穫となり作業の分散が図れると同時に、立毛乾燥が進むため、乾燥機の稼働時間の縮減もでき、コスト低減になっている</li> </ul> <p>○多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移植と同時に基肥施肥、除草剤散布を行っている</li> <li>・生育に合わせた細やかな水管理をするため、溝切を行っている</li> </ul> <p>○その他コスト削減等の取組があれば具体的に記載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JGAP認証を取得し、昨年のデータを元に改善した上で栽培計画を立て、無駄のない効率的な栽培を心がけている</li> <li>・自社で乾燥・調整し、フレコン出荷することにより、出荷作業の省力化ができています</li> </ul>